

<対策のポイント>

養豚経営の安定を図るため、地域における種豚等の能力向上に必要な純粋種豚等の導入や人工授精の普及等の飼養管理技術の向上など、生産性向上や生産コスト削減の取組を支援します。

<事業目標>

- 種豚の能力向上とその効率的な利用、飼養管理技術の向上等により、養豚経営の体質強化を図る。

1 背景・課題

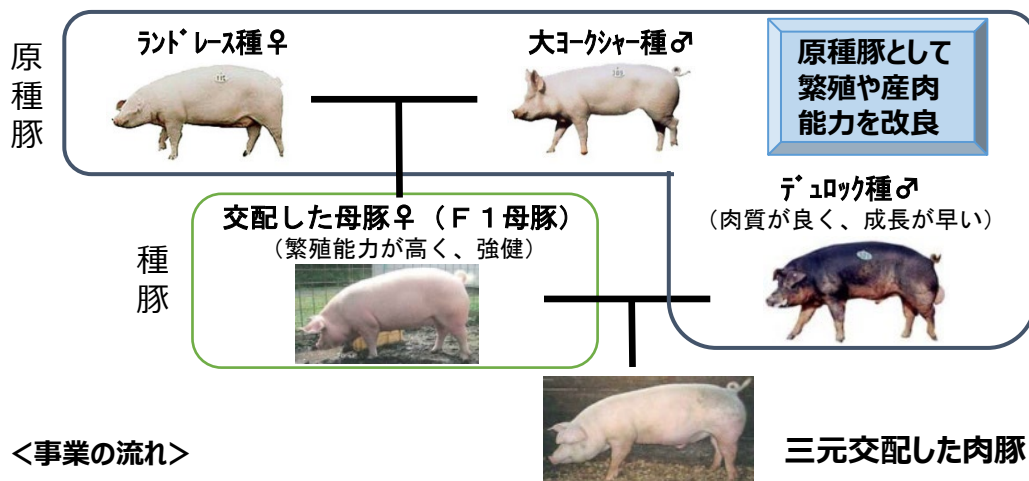
養豚先進国に比べ繁殖能力が劣る

繁殖能力を向上し、生産コストを低減する必要

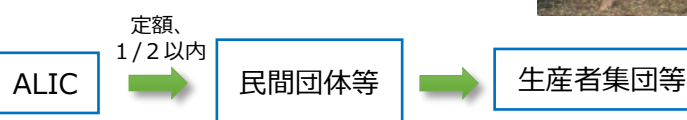
繁殖能力の国際比較

繁殖能力	日本	米国	オランダ	デンマーク
年間分娩回数(回) (a)	2.26	2.40	2.34	2.25
1回当たり育成頭数(頭) (b)	10.4	11.4	13.2	15.1
年間離乳頭数(頭) (a) × (b)	23.4	27.3	30.8	33.9

(参考) 豚の交配例



<事業の流れ>



2 事業の内容

- ・優良な純粋種豚等の導入を支援

原種豚(生体、精液)の導入

種豚の遺伝的能力の向上

補助率 1/2

上限：純粋種豚：10万円/頭
広域的な利用のための海外純粋種豚：40万円/頭
精液：1万円/本

- ・両親(原種豚)の能力が明らかなF1母豚の導入を支援
- ・繁殖成績を収集し両親の評価に活用

F1母豚の導入

両親(原種豚)の評価に活用

補助率 1/2

要件緩和 臨時対策(12月まで)
上限：2万円/頭
導入頭数の上限：30頭まで → **45頭まで引き上げ**

- 豚の育種改良(繁殖能力)のスピードアップ
- 養豚経営における生産コストの低減